

常総 100km 徒歩の旅

スタッフ体験談

去年の春、大学は忙しいけれど、何か自分の成長のために挑戦してみたい！

そんな気持ちから徒歩の旅に参加した当初は、周りの学生が自分の意見をしっかり言って行動している姿に「自分はこんなすごい人ばかりのところじゃちゃんとやれるのか」と不安な気持ちばかりでした。けれど、みんなと活動していくうちにある学生スタッフに「聖徳の学生は子どもたちについてよく勉強しているから一緒に班だと心強いと言われた時は「自分にも役割があるんだ」「みんながみんな自分のできることを精一杯やるということが大事なんだ」と思いました。

私は成長は「人との出会い」によって、あると考えています。人に会った分だけたくさんの考えを知り、人の生き方を知ることができるのです。

あの時、無理かもしれないと諦めずに最後までやり抜けたのはみんなと一緒にだったからです。

本当に大切な仲間と思い出を得ることができました。みんな、本当にありがとうございました！

聖徳大学 3年 阿部千恵子 (あべせん)

私が常総 100km に参加したきっかけは友人です。私と同じ生活をしてきた友人が、日に日に目標を持ち輝かしく励む姿を見て「私もこうなりたい！！」と素直に思いました。100km では楽しいことだけではなく、大きな課題や自分を見直すきっかけの場でもあります。私たちのことを第一に考えてくださる社会人の方々、たくさんの笑顔と勇気をくれた子どもたち、その姿を温かく見守ってくださった保護者の方々、そして共に支え合って励んだ学生スタッフ。100km で出会った仲間は私の宝物です。

聖徳大学 2年 井元恵 (いもめ)

「輝いている仲間と、キラキラした時間を」

初めて友人から100km を教えてもらったときには、「私に100km も歩けるはずがない」と思い、参加を悩んでいました。

しかし、説明会に行き、ミーティングに参加してみると、学生スタッフや社会人の方々の姿のなんと輝いていること！！100km という事業の成功に加えて、学生スタッフの成長にも力を入れているミーティングは、私の積極性や向上心をかきたてる、非常に刺激的で魅力的なものでした。100km という距離の不安をかき消すくらい、皆が心から生き生きとしていました。スタッフ全員の輝く姿とひたむきな姿勢に感動し、「私も輝きたい！！」と強く感じました。私はその場で参加を決意しました。

参加を決意してからは、毎週のミーティングが楽しみで、子供のように週末を待ち遠しく思っていたことを覚えています。

そんな仲間たちと試行錯誤をしながら準備し、挑んだ本番は何物にも代えがたい経験となりました。私は班付きリーダーとして当日歩きましたが、最も不安であった100km 歩くということも、仲間とともに歩む道のりならば怖いものはありませんでした。また、私たち学生スタッフにとって、歩くということは私たちがすべき仕事のうちの半分程度でしかありませんでした。なので、歩く行為自体に辛さを感じている暇はありませんでした。最後にゴールしたときは、達成感と充実感で自然と涙があふれました。

最高の仲間と、最高の夏の思い出を作ることができ、本当にうれしく思います。辛いこともたくさんありましたが、達成感や充実感、何より素晴らしい仲間を得ることができたということが、私にとっての大きな財産になりました。この事業に二年連続で参加できることを誇りに思います。

筑波大学第一学群人文学類 3年 内田茜 (あかね)

私が常総 100km に参加したきっかけは引越しを手伝ってくれた友人の言葉でした。友人の口から出た「100km を歩く」という言葉が就活も終わり、なんとなく目標を失っていた自分には魅力的に聞こえました。

実際、参加してみると魅力的な仲間や大人たちから刺激を受け、どこか冷めていた気持ちもだんだん温まってきました。100km の道のりではゴールまでいくつかの中継地点を目指して歩きます。その間には楽しいことも辛いこともあります。「人生」そのものです。私はこの事業を通して大きな目標を達成するためには日々、小さな目標をクリアしていくことが大切だと学ぶことができました。

常総 100km を通して 300 字じゃ書ききれないくらい多くのことを感じ、考えました。どんな状況に置かれた人でもそれぞれ得られることがある事業だと思います。少しでも興味を持った方はまずは行動にうつしてみてください。

筑波大学 4 年 神谷勝之 (まさる)

私が参加したキッカケは、子どもが好きだから夢中になれる事がしたかったからでした。参加すると、想像もできないくらい楽しくて温かくて熱い環境がありました。また、夢や視野がすごく広がりました。どんな事も最後まで諦めず行動すれば必ず叶う事を、学び体験しました。私は、こんな体験を一人でも多くの人にしてもらいたいです！最後に、今一番楽しい事は何ですか？ 将来はどんな大人になりたいですか？ 毎日幸せに過ごしていますか？ すぐに答えが出なかった、あなた！ 常総 100 km にそのヒントがあります。

聖徳大学 2 年 川上沙織 (ちゃり)

僕の趣味はずばり『散歩』。別に子どもたちの世話などに興味があるわけではなく、単に「100km を歩いてみたい！」というのがこの常総 100km 徒歩の旅へ興味を持ったきっかけ。しかしいざ参加してみると当初の思惑からどんどんそれていくじゃありませんか！ 人付き合いがとにかく苦手だった僕にとって最初はキツい部分もありましたが、1 年間揉まれてみたら不思議なことにその悩みはいつの間にか克服しちゃっていました。

とまあ、真面目な人だけじゃなく僕みたいな変わり者も大歓迎。一緒に第 3 回を作り上げていきましょう！

筑波大学理工学群社会工学類 2 年 澤田敏規 (ちやそ)

なんとなく、楽しそうだから。きっかけはこれだけ。そして得られたものは、学生、社会人を含めた素晴らしい仲間と、子どもたちと一緒に成長できた 5 日間と、少し変わった自分。楽ではないけど、つらくなかった。こんなに一生懸命になれる自分があることに、正直驚いた。100km に出会わなかったら、今の自分はきっといない。みんなで作り上げたからこそ何倍もの感動を得られた、最幸に熱い夏。一人でも多くの人に、この感動を体験してほしい！

筑波大学国際総合学類 3 年 嵯峨奈央子 (さがちゃん)

私は去年行われた『常総 100km 徒歩の旅』に参加し、真っ黒に日焼けしながら、自分の不甲斐なさに涙し、子ども達や仲間と笑った 5 日間は忘れられない思い出となりました。印象に残っているのは、報告会での保護者の方からの生の声でした。数々の感謝の言葉に「ああ～ やってよかった」と心から思えたことと、子どもの成長を間近に見られたことです。

そして、現在仕事をしている中で結びついていることは、「できる、できる、必ずできる」という言葉です。困難な仕事に直面した時、この言葉を思い出し励んでいます。

佐藤悠衣 (ゆい)

ボランティアってどういうもの？ そんな疑問や不安を抱えながら初めて参加したボランティアが常総 100km 徒歩の旅のボランティアスタッフでした。しかし 100km に参加してすぐにそういったものはなくなりました。なぜなら 100km には自分の可能性を信じてくれる仲間、夢や目標に向かって一生懸命な仲間がいて、そんな仲間と一つの大きな目標に向かって一緒に頑張れる環境があったからです！ この事業に出会えて本当によかったです！！一緒に一生の宝物を探しませんか？

東邦大学 1 年 芝沼雅敏 (とし)

「行ってらっしゃ~い！」「頑張れ~！」のハイタッチで送り出し、「おかえり~！」「よく頑張ったね！」のハイタッチで子どもたちを迎え入れる。出発 到着時には、スタッフや、手伝いに来てくれた地域の方々と長い長い一列ができ、いっぱい笑顔が子どもたちに元気を送る。この旅では、多くの人たちのあたたかさに触れられる。地域で子どもを見守ることで地域社会は安心感に包まれ、生き生きとした活力が生まれてくる。現代では失われつつある、そんな地域のつながりが、この旅を経るごとに大きくなっていくことも感じられた。地域に期待される事業として、今後もこの旅を続けたい。

筑波大学第3学群国際総合学類3年 立花かおり(かおり)

『世界で一番あつい夏』

本気で悩み、本気で意見し、本気で変える。遠慮なんてないからこそ真剣になる。

限界なんてない。自分の成長が仲間を変え、子供を、社会を変える。その向うにあるのは世界で一番あつい夏。

4年間の思い出が作りたかった。何かをやり遂げたと言いたかった。参加の理由はそれだけ。でも、変わった。成功と変化、そして成長。いつの間にかそれだけを求めていた。その日のために、創り上げ、支え合ってきた。ゴールをくぐったその瞬間、ただ涙が出た。

やっていない人間に成功はない。変わろうとしない人間に変化はない。立ち止まったままの人間に成長はない。やってみようか、その向こうにある成功。自分がやるんだ！その向こうにある変化。小さな一歩、その積み重ねが成長。友達じゃなく、仲間』がここには確かに、いる。

変わるべき自分が、いる。

誰かがやらなくてはいけないことが、ある。

踏み出せ、世界で一番あつい夏へ。

筑波大学4年 千葉陽子(ちばよー)

周りの人は積極的。でも自分は積極的に行動できない、今の自分に何ができるのかわからない。でも大学のうちに何かやってみたい。去年の今頃の僕の心境です。そんな時出会った100km。100km歩けば自慢できると単純に思い、学生スタッフの人に話を聞くことに。しかし話の内容よりなにより、その人の目が本当に輝いていた。そして自分もあなりたいと強く思い即参加。今思うとそれが大きな一歩になっていました。やれるかどうか悩んでいる時間がどれだけ無駄か、やってみる一歩がどれだけ貴重かを知りました。そして今では自分が輝いていると言い切れます。

筑波大学第三学群国際総合学類3年 中嶋創(そう)

一年前の今頃、僕はこの「常総100km徒歩の旅」に参加しようか迷っていた。

参加しない理由はいくらでも考えられた。でも、友達の熱心な勧誘で参加してみようと思った。

我ながら恥ずかしいことだが、そのときの自分に深い動機なんてなかったと思う。

あえて挙げるとすれば、いつも面倒くさがりな彼がなぜこんなことをしているのか知りたいという興味本位だった。

そして、参加してみて気づいたこと、それは「動機は後から自分で見つけるもの」だってことだった。

これからの僕たちに必要なことは「自分で居場所を作る力」だと思う。

就活をしたからってほんとにやりたい仕事が見つかる保障なんてどこにもない。

でも「自分で居場所を作る力」を身につけていたら、やりたいことはどこに行っても見つかるんじゃないだろうか？

そんな単純だけど、とても大事なことに気づかせてくれたこの事業に感謝して、僕は今ここにいる。

「参加したきっかけはこの文章を読んだから」それでいいんじゃないだろうか？

僕は、これからも一歩踏み出す勇気を育てていきたい。

筑波大学第一学群自然学類4年 仁賀木秀平(にがっち)

100km を一言で表すと?...たくさんありすぎて一言では言い表すことができない。100km にはそれだけ魅力的なものがたくさん詰まっている。無我夢中で歩ききった五日間、そしてそれに費やした膨大な準備時間。無駄なことなんて一つもなかった。全て「成長」という形で私達に返ってくる。キラキラ輝く子ども達の笑顔、ピンチの時の心強い社会人スタッフ、そしてとにかくアツい学生スタッフ。誰一人欠けたって常総 100km は成り立たない。そんなかけがえのない「仲間」を私達は待っています。夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ

筑波大学 3 年 袴田大輔 (大ちゃん)

ちょっと様子を見てから、参加するかどうか決めよう。そんな軽い気持ちでのぞかせてもらったミーティングで、もう私の心のな中は決まりました。まわりを一気に明るくする笑顔、難しいとみんなが感じていることでも、何だかやればできるような気にさせてしまう雰囲気。「わぁっ!! こんなおとなになりたいなぁ!!」そう私に思わせる魅力いっぱいの人に出会ってしまったからです。

「なんか社会人になりたいくないなぁ...」とあきらめモード全開だったのは、ちょうど一年前の 1 月、はじめてミーティングをのぞかせてもらっていた頃の私です。でも「常総 100km 徒歩の旅 2008」を経験した今、もうそんな風にあきらめたりはしません。出会った仲間や私たち学生を見守ってくれる社会人のみなさん、子どもたちの成長を願いひとつの目標に向かってみんなと一緒に頑張れた時間と経験。こういうすべてのことが「やっぱり夢に向かってがんばってみよう!!」という、今の私の自信を支えています。

もし参加するかどうか迷っている方、ちょっと気になるなぁと思っている方がいらっしゃれば、ぜひ一度ミーティングに足を運んでみてください!! 私のように、はじめの軽い気持ちの一步が、あとで振り返ってみれば大きな意味をもつ一步になっているかもしれません!!

筑波大学 第三学群 国際総合学類 3 年 橋永みゆき (みゆき)

よかあの夏は、私が生きてきた 20 年の中で、最も熱く、最も感動した夏でした。決して忘れる事の出来ない、夢中になれた夏でした。「自分を変えたい」そんな想いで参加したこの事業。私にとって、一つの大きな挑戦で、毎日をただ過ごしていた私には、この事業で自分を変えられるなんて、正直半信半疑でした。しかし、ミーティング等に参加していくうちに、同じスタッフ達の熱い想いを知り、自然と自分も熱くなっていました。子供達の成長や安全、地域の人々の理解や協力など、多くの要素が詰まったこの事業を成功させる事に、日々魅力を感じていきました。当日は、毎日笑顔で、スタッフや子供達といつのまにか絆まで生まれ、困難や喜びなど、同じ時

を過ごす事にうれしさを感じていました。この事業は、人と人を繋ぐきっかけとなり、様々な刺激を得て、私自身人として大きく成長できたと強く思います。この 100 キロの事業に携われて、本当によかったです。

聖徳大学 平野瑛子 (えいちゃん)

高校生活が終わり、大学生までの春休みをやることが見つからず、もはや病気なのではと思うぐらいだらけきた毎日を過ごしていた自分に、すでにこのボランティアに参加していた友達からスタッフ募集の勧誘が来たのが常総100kmを知ったきっかけでした。最初は「暇だし、大学生になって新しいことを始めるのも面白いべ」という具合にこの事業自体に何の感慨もなく参加を決めました。しかし実際参加してみると常総100kmにはいろいろなものが詰まっていた。だらけきた自分にはまぶしすぎるほどこの事業を思っている社会人の方や学生スタッフ、そんな人たちに影響されて積極的になれたことにより得られた経験、同じ目標に向かって1つになった世代を超え本番が終わった後でも関わりを持っている仲間たち、自分が子どもの時にはできなかったことをやり遂げた子どもたちがくれた感動、これらによって春休みのくだらない生活からは考えられないくらい充実した日々を送れるようになりました。そして今年は2年目の常総100kmになります。1年目とは違い2年目は明白な理由を持ってこの事業に参加しています。でもその理由は少しかつこよくて重くなるし、参加する理由は人それぞれなのでここには書きません。1年目の自分もそうですが参加する動機は何であってもしっかりしなくて構わないと思います。参加する理由よりも参加し続けたい理由！！これが大事だと思っています。ですから一度スタッフミーティングに顔を出して、魅力あふれる団長をはじめとする社会人の方たちや、やるきにあふれる学生スタッフと接してみてください。そこには参加し続けたいと思わせるものがきっとあるはずです。

青山学院大学1年 藤代恭平 (ふじ)

「やってみよう」。去年参加した友だちに体験談や当日のムービーを見せてもらい、気軽に参加した最初のスタッフ会議で事業への参加を決めました。たくさん子どもたちに感動を与えられる事業だと思いましたし、何よりこのスタッフたちと一緒に何かを成し遂げたいと感じました。僕自身4年生で卒業も間近ですが、どんな人でもまだまだ新しいことにチャレンジできますし、新しい出会いを得られます。説明会に参加して少しでも心に響くものがあったら、ぜひスタッフ会議へ！

筑波大学第三学群国際総合学類3年 益子陽介 (まっぴー)

常総100km 徒歩の旅を通して得られた大学、世代を超えた仲間や地域との繋がりは本当に貴重で、そこから多くの知識や考え方を学ぶことができました。本事業に参加して約1年、多くの失敗を通した様々な経験が大学生活、将来社会に出ていくための最高の刺激になっていると感じています。常総100kmは今年でまだ3回目の事業です。課題づくしで、事業への挑戦を通して考え、学ぶことのできるチャンスが多くあります。去年は、僕はただ目の前の実務をこなしていただけでした。1つ1つの物事に対し「なぜやるのか?」、「どんな目的か?」目的意識、問題意識を明確にし、さらにパワーアップした09を作っていきたいと考えています。子どもが好き、ボランティアが好き、何か新しいことを始めたい、友達が参加してる・、きっかけは人それぞれ。僕たちと一緒にチャレンジしませんか? 最高の仲間達への出会いと感動を保証します。

筑波大学第三学群工学システム学類4年 溝口勝哉 (かつや)

あの夏からもう半年がたつんですね。最近になってようやく足首についた日焼けが取れてきました。遅っ！老化現象ですね(笑)でも日焼けを見るたびに真夏の太陽の下で足をなげだして子どもたちと食べたかき氷を思い出します。

常総100km 徒歩の旅2008。なんだか遠い昔のようで(まだ半年前ですが…) けど思い出だけで心が熱くなる。海を越えてもあの日から途切れることのない友情。そして100km を経て成長し続ける今のわたし。目に見えるもの、見えないもの、たくさんの宝物を一步一步足を前に進めるたびに得ました。そして今も得続けています。09 本当に楽しみです。説明会やミーティングに参加できませんが夏にみんなや新メンバーと会えるのが楽しみです。説明会では100km についていろんな方向から説明すると思いますが、私が一番新メンバーの心をとらえるのは、前にとしもMLで言いましたが「人」だと思います。だから是非どんな人たちがどういう思いでこの100km に参加しているのかにも焦点を当てていただけたらと思います。ということで実際に100km に参加して私が得た100km メンバーのイメージを下に書いてみました。100km で熱い人たちにたくさん出会いました。

まず大人です。社会人スタッフさんです。成長することを忘れない人たちです。常に挑戦。常に前進。夢のある大人です。目的のある大人です。自分の能力や技術をいかして「俺たちが社会を豊かにするんだ」という使命感のある大人です。人任せじゃなくて、自分から何かしようとしている大人です。私もこんな大人 社会人になりたいと本気で思っています。

次に学生スタッフです。多感期ですね(笑)迷ったり落ち込んだり憧れたり、忙しいです。でも何かしたい、感動したい、心にガツンと響くような体験 出会いがしたい…とかいろいろな目的をもった人が集まっています。いろいろな専門バックグラウンドをもっているので話していると刺激いっぱいもらいます。

最後に子どもたちです。輝きを秘めています。原石の輝きです。可能性でいっぱいです。小さい力ですが純粹でまっすぐで、ときに大人たちを驚かせるくらいのパワーがあって、見るだけで感動します。彼らは一瞬一瞬の中でさえも何かを見つけ出していて、私たちに気づかせてくれます。

この3つのアクターが互いに影響し合える場が100km だと思います。大人が子どもに一方的に教えるのではなく、大人も子どもから学び気づかされる場です。だから子どもが生きる力を養う場だけでなく、私たち自身も100km の準備や本番の中でさまざまな試練を通して学んでいます。社会人も学生も子ども達も本気の100km。そんな100km だからこそ学べるのがたくさん詰まっています。

私は100km を通して自分の人生を考えるような経験や出会いをしましたが、それはすべて「手を挙げる」ということから始まりました。他のスタッフもそうです。日常のなかにはいろんなことをするチャンスが転がっていますが、それをやるかやらないかは自分次第。100km のポスターを見てやるかやらないかも自分次第。みんなきっかけは小さなことだけど、100km のゴールを切った時に確実に大きなものを得られています。

みんなで作っていく100km。09 も熱い夏にしましょー！

筑波大学国際総合学類3年 室垣奈津未(ごり象)

何かに打ち込み今までの生活をリスタートさせよう！！そんな思いから、100km と私の出会いは始まりました。遅いスタートで知り合いもいなかった私ですが、参加してすぐに仲間の温かさに触れ「やってみたい！」と思いました。自分を持っていて、その考えを人に伝え、主体的に行動できる。そんな輝いている仲間の中で学び、活動できたことを嬉しく思います。何より子供たちの成長に驚かされましたし、子どもたちからもらった素直さや頑張る姿勢は自分もみならうところです。

本事業を通じて感じ、考えた沢山のことは今度の自分の生活の糧になるもので、100km はとても貴重な体験でした。本気で子どもと向き合って、一緒に頑張ってきた仲間と青春して・子どもたちと最高のスタッフと共有した感動の5日間に本当に感謝です。

聖路看護大学 山野辺恵子(おけい)